埼医業Ⅰ第３２９号
令和６年４月２６日

郡市・大学医師会長　殿
（ 担 当 理 事 ）

埼玉県医師会長　金井　忠男
（担当常任理事　　登坂　英明）
（公印省略）

麻しん流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方について

現在、小児の MR ワクチン接種率が低下傾向にある一方で、諸外国からの輸入麻しん例が報告され、今後流行の拡大が懸念されております。しかしすでに厚生労働省や日本医師会から情報提供されているように、一部製造業者による MR ワクチン等の自主回収が起こり、必要量のワクチンが早期に供給されるか懸念されるところです。

また、年度末から年度初めの定期予防接種希望者の増加時期と、医療職や救急隊・警察・自衛隊関連職種など、種々の職種において新たな入職者が増加する時期が重なり、さらにワクチンの需要が高まることが予想されます。

このような状況の中、早期に麻しん含有ワクチン接種が必要な方に、適切な接種環境を提供できるよう、医療関係者に接種の優先順位等を判断いただくための根拠について、別紙（写）のとおり予防接種推進専門協議会から資料提供と周知依頼がありました。予防接種推進専門協議会が示した麻しん含有ワクチン接種の優先順位は下記のとおりです。

つきましては、貴会におかれましてもご了知いただき、管下会員にご周知いただきますようお願いいたします。

記

【麻しん含有ワクチン接種の優先順位】
①第 1 期、第 2 期定期接種対象者（最優先）
②麻しんに罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦など）の周囲の方*
　＊妊娠中の風しんを予防するための、妊娠を希望する女性や妊婦の周囲の方への MR ワクチン接種も含みます
③海外渡航予定者や海外訪問者と空間を共有する機会が多い方
④年齢相応のワクチン未接種者、並びに麻しん罹患歴なしの方

担　当：埼玉県医師会 業務課 業務Ⅰ担当　森田
ＴＥＬ：０４８－８２４－２６１１

写

2024 年 4 月吉日

埼玉県医師会会長　金井忠男 殿

予防接種推進専門協議会　副委員長　峯眞人

予防接種推進専門協議会作成資料「麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方」埼玉県医師会会員周知へのお願い

埼玉県医師会におかれましては、県民への感染対策及び予防接種推進等につき、ご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

近年諸外国ではコロナ禍でのワクチン接種率の低迷、コロナ後の人流の増加等も相まって、麻疹の流行が顕著になってきています。

我が国においても小児の MR ワクチン接種率が低下傾向にある一方、諸外国からの所謂輸入麻疹例が報告され、今後流行の拡大が懸念されます。

空気感染という極めて感染力の強い麻疹において、最も有効な感染予防対策が麻疹含有ワクチンの接種であることから、本ワクチン定期接種対象の小児だけでなく幅広い年齢における接種希望者の増加が予想されます。

しかしすでに厚生労働省や日本医師会から情報提供されているように、一部製造業者による MR ワクチン等の自主回収が起こり、必要量のワクチンが早期に供給されるか懸念されるところです。

さらに年度末から年度初めの定期予防接種希望者の増加時期と、医療職や救急隊・警察・自衛隊関連職種など、種々の職種において新たな入職者が増加する時期が重なり、さらにワクチンの需要が高まることが予想されます。

このような状況の中、早期に麻疹含有ワクチン接種が必要な方に、適切な接種環境を提供するために、予防接種推進専門協議会では別添の「麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方」を作成し、本ワクチン接種に係わる多くの医療関係者に、接種の優先順位等を判断いただくための根拠として本資料を作成いたしました。

埼玉県医師会におかれましては、是非多くの会員先生方に本資料を提供いただき、麻疹含有ワクチンの適切な接種環境を確保していただけるよう、ご尽力のほどお願いいたします。

なお本資料作成機関である予防接種推進専門協議会は、「予防接種制度について継続的に評価・検討し，全ての年代に必要な予防接種を国内で適切・安全に実施できる体制整備に貢献する」ことを目的として 2010 年に結成され、内科・外科・小児科・産婦人科・耳鼻咽喉科などの複数の学会や医会をはじめ、感染症やワクチンに関連する 25 の団体が所属し運営されている任意団体です（http://vaccine-kyogikai.umin.jp/）。

以上ご検討のほどよろしくお願いいたします。

麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方

2024 年 4 月 4 日

予防接種推進専門協議会

現在国内で麻疹患者の報告が多くなっています。現在国内では定期接種として第 1 期として 1 歳～2 歳未満に 1 回、第 2 期：5 歳以上 7 歳未満で小学校就学前の 1 年間に 1 回接種していますが、年齢相応のワクチン接種をしていない方、特にこれまで麻しん含有ワクチン接種歴、ならびに罹患歴のない方が、現在感染者の多くを占めています。

麻疹は昨年から海外諸国では流行していますが、麻疹は空気感染をするため、渡航者、並びに来訪者が増加している昨今、国内での麻疹ウイルスへの曝露の機会が増えていることが想定されます。定期接種対象年齢の人で年齢相応のワクチン接種を受けていない方、麻疹に罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦さんなど）の周囲の方、並びに海外渡航予定者や訪問者と空間を共有する機会が多い方（観光業、技能研修生受け入れ先などの職員）は、ご自身の麻しん含有ワクチンの履歴を確認していただき、不足している場合は速やかにワクチン接種を行ってください。

一方で、国内で流通している乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン（以下、MR ワクチン）の供給量には限度があります。また、現在のように、国内で麻疹が流行するとワクチン接種希望者が急増し、ワクチンの供給が追い付かない場合が生じます。従って予防接種推進専門協議会では以下のように優先順位を提案いたします。

優先度順位

① 第 1 期、第 2 期定期接種対象者　**（最優先）**
② 麻疹に罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦さん等）の周囲の方*
　＊妊娠中の風疹を予防するための、妊娠を希望する女性や妊婦さんの周囲の方への MR ワクチン接種も含みます
③ 海外渡航予定者や訪問者と空間を共有する機会が多い方
④ 年齢相応のワクチン未接種、並びに麻疹罹患歴なしの方

本来であれば渡航前に未接種未罹患者はワクチン接種を行っていただきたいところですが、流行予測調査事業（抗体保有率調査）の結果や麻疹の感染力、感染経路を考慮した場合、日本で麻しんワクチンが開発される以前に流行期を経験した 50 歳以上の方では、麻疹罹患歴のある方が多数を占めると考えられるため、50 歳以上の方で海外渡航時にワクチン接種歴不明、未罹患あるいは罹患歴不明の場合は、抗体価検査を実施したうえで接種の

判断をしていただければと思います。

また風疹第 5 期定期接種対象者（昭和３７年度～昭和５３年度生まれの男性）は風疹抗体価を測定し、十分な風疹抗体価を保有しない方は MR ワクチンを接種することになるため、麻疹に対するワクチンを定期接種として接種することが可能です。なお、風疹第 5 期定期接種は 2025 年 3 月 31 日までの時限措置のため、早めに検査を受けるようにしてください。